

## 大学入試センター試験

今年の大学入試センター試験は、14日、15日の両日にかけて行われましたが、全国58の会場で地理歴史と公民で問題配布ミスなどのトラブルが相次ぎ、約4700人に影響が生じたといわれています。

トラブルの中身は、大きく分けて2つあり、1つは試験官が地歴と公民の2冊を配布するのに時間がかかるなどしたため開始が遅れ、終了時間を繰り下げたケース、もう1つは、2冊配布する必要があるのに、地歴のみを配布、その後誤りに気づいて公民を配ったケース、というものですが、影響の規模では過去最悪とのことでした。

原因の一端は、今回から、社会で新しく導入された新方式が末端の会場にまで周知徹底されなかったということらしいのですが、いい訳にもなりません。

大学入試センター試験は、公平さと正確さが最優先されなければなりません。こうした中、極めて初歩的なミスが生じたということは、運営側の責任はもとより、試験担当者の意識にも、責任感が欠如していたのではないかと指摘せざるを得ません。

今回の事態に、タガが緩んでいるとの批判の声がありますが、全く同感です。

受験生の皆さんは、自分の一生にも関わる大きな試練と受け止め、必死に準備をして来たのですから、試験を実施する側も、そのことを十分に意識して、トラブルが生じないよう最善を尽くすべきです。

人間のすることにミスは付き物です。だからこそ、そのことを前提に準備をしなければなりません。

大学入試センター試験のトラブルを受け、文部科学省では16日、試験を運営する大学入試センターに対し、全容の把握と原因究明について調査するよう指示しましたが、今後の調査次第では、影響人数がさらに拡大する可能性も懸念されています。

大学入試センターには、受験生に不利益が生じないよう十分配慮していただくと共に、再発防止を徹底していただきたいと思います。

また、私が教育長時代、高校入試に際してミスが生じ、子ども達に申し訳なく感じたことが一度ならずありますので、今回の事態は決して人ごととは思っていません。これから始まる高校入試については、子ども達のためにも、トラブルなく円滑に実施されるよう期待しています。(塾頭 吉田 洋一)